

住民参加の歩道整備とまちづくりへの展望に関する研究 —国道16号電線地中化と横須賀市追浜大通り商店街—

関東学院大学 学生会員 ○ 山村明子
 関東学院大学 学生 佐治史恵
 関東学院大学 正会員 昌子住江

1 はじめに

横須賀市追浜地区は横須賀市の北部にあり、横浜市に隣接している。臨海部の工場地帯には、日産自動車追浜工場、住友重機、岡村製作所等日本有数の大企業や、(独法) 海洋研究開発機構といった国際的な研究機関が立地しているが、一方最近では空き工場も出現している。丘陵部の住宅地湘南鷹取は市内でも優良な住宅地として知られるが、市内有数の高齢化率を示しており、その地形的な条件からくる生活課題が懸念されている。その間にある商店街は京浜急行追浜駅周辺に広がっているが、ご多分に漏れず空き店舗が目立つようになっており、残る店舗も魅力に乏しいものとなっている。研究室では2004年より、空き店舗を活用したまちなか研究室を拠点に、地元の商店会や行政との協働による商店街の活性化と追浜地区のまちづくりに取り組みつつある。

2. 国道16号の電線地中化と舗装の復旧

現在追浜では、国道16号電線地中化に伴う舗装復旧工事が予定されている。2005年度内に国道16号電線地中化工事が終わり、2006年度には追浜大通り2,3丁目商店街を対象とした舗装の復旧が行われる。国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所(以下「横浜国道」)では、歩道整備についての住民要望をできるだけ取り入れるようにするという姿勢を示した。一方横須賀市では、市の景観整備方針や色彩のガイドラインに基づき、これに即した舗装の色を横浜国道に申し入れをしているという。そこで、ここを利用する住民や国道沿いの商店が現在の歩道の何が問題だと考え、今回の舗装の復旧を期に何を要望しているかを探り、横浜国道に提案することとした。ただし、今回は歩道の拡幅のような大幅な変更は伴わないため、実際に要望できることは限られてくる。また、アーケードの問題や商店の前の商品のはみ出しなど、むしろ地元商店会の問題や今後のまちづくりのなかで検討すべき問題も当然出てくるのが予想されるが、それについても今後の資料として記録しておくことにした。したがって、単に舗装だけでなく、対象を歩行空間として少し広く課題を抽出することとした。

これは、追浜地区が前述のような問題を抱えながら、今まで市民による目立ったまちづくりの活動がなかったことから、歩行空間を考えることをまちづくりの第一歩にしたいと考えたからである。

3. 調査と活動の方針

上記の方針にもとづき、以下のような調査および活動を行うこととした。

- ・調査に関するもの 商店、住民へのアンケート調査 歩行者等交通量調査
- ・ワークショップ 当初課題の抽出、提案の検討、提案の確認と3回のワークショップを計画していたが、ワークショップ形式は2回とし、3回目は提案展示として空き店舗を借り、ポスターセッション方式で3日間にわたって開催した。日時を限定したワークショップに参加できない人にも、歩行空間について、ひいては追浜のまちづくりについて考える機会を持って欲しいと考えたためである。

4. 商店・歩行者アンケートと歩行者等交通量調査

工事の対象範囲内にある商店、周辺住民、商店街の歩行者に、追浜大通り商店街歩道整備についてのアンケートを行った。アンケート項目は、舗装の他、商店街のアーケードや今後の追浜のまちづくりに望むことも含む10問

キーワード 住民参加、電線地中化、歩道整備、まちづくり

連絡先 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 関東学院大学工学部 e-mail:sshoji@kanto-gakuin.ac.jp

とした。実施は10月18、22日の両日で、商店、住民は回答が100票を越えたが、歩行者へのインタビューは協力者が少なく、2日間で30名に留まった。現在の歩道については段差や凹凸が気になると言う意見が多く、商品のはみ出しについては、気になると言う意見が多かったが、歩行者の中に商品が選びやすいという意見が少なからずあった。これについては意外な感じがしたが、店の中に入りにくいと言う面があると考えられる。歩道整備に関する要望としては、高齢者や障害者でも安全に通ることができるようにしてほしいということ、雨天の時でも滑りにくい舗装にして欲しいといった内容が多かったが、これは今回の舗装復旧でアスファルトから透水性平板に変わることと、バリアフリー化が行われることで解決されと考えられる。またこれからの追浜のまちづくり全般に望むこととしては、活気ある明るい街にという意見が一番多く、駐輪対策やゴミ問題を解決してほしいという意見もあった。

あわせて、歩道利用の実態をある程度把握するために歩行者等交通量調査を行った。追浜大通り商店街の4ヶ所にポイントをおき、歩行者・男女、自転車・男女のほか、乳母車・車椅子・手押し車等の項目に分類、7時～22時までの15時間を計測した（平日と休日それぞれ同時時間帯で計測）。これにより、通勤・通学と買い物等の利用による利用状況を把握した。なお、高齢化が目立つ地区であるが、乳母車の通行も少なくないことが分かり、今後商店街の再生を考える時配慮すべき点と思われた。

5. 歩行空間を考えるワークショップの実施

以下のように3回のワークショップを実施した。なお前述のように3回目はポスターセッション方式で3日間にわたって実施した。

1回目：10月29日（土）15:00～17:00（エルシャンテ追浜5階）

参加者：一般参加者 8名 学生7名、教員1名

2回目：11月23日（祝）15:00～17:30（エルシャンテ追浜5階）

参加者：一般参加者 16名 学生9名、教員1名

1回目は、横浜国道より国道16号電線地中化と舗装の復旧事業についての説明、ならびに横須賀市都市部景観推進課より横須賀市の景観まちづくりについての説明を受けたのち、2班に分かれてワークショップを行った。2回目は事前の広報活動に力を入れたことから参加者が増えたので、新しい参加者のため経緯について簡単に触れたあとで、3班にわかれてワークショップを行った。2回で出た意見をまとめると、・舗装については一歩道を明るくしたい（グレーを基調とすると暗くならないか） ・特にアクセントカラーは必要ないが、商店街の歩道には地域の特徴をあらわすようなサインを入れたい ・ベンチなどストリートファニチャーについて 横断防止柵は商店街の場合、必ずなければならないか、他の施設で代替出来ないか（植込み、フットライト等）といった意見が多かった。他に商品のはみ出しがあって歩きにくい、自転車の方向や駐輪が邪魔になる、バス亭の整備（屋根をつけて欲しい）、アーケードは将来的に撤去した方が良く、といった意見が出された。また商店街のアーケードが切れたところからは歩道が暗くなるので、防犯灯の設置について強い要望が出された。参加者からは、これを期にまちづくりについて市民が中心になって検討する場がほしいという声が上がった。3回目は1月19～21日にわたって実施されたが、その結果については現在集計、整理を行っている。3日間の参加者は40名程度であったが、会場を覗いても声をかけられると通り過ぎてしまう人も多く、地域への浸透は今後の課題である。

6. おわりに

2006年度の舗装復旧工事に合わせて住民要望に沿った整備を行うには、2月中旬までに報告書にまとめ、横浜国道と横須賀市に提出しなくてはならない。その後の検討によっては要望通りにならない項目も出てくるが、その場合は理由を付して回答するとの行政側の意向である。今回は、住民要望を入れたいと考えても地域に入る具体的な手がかりのない行政側と、要望があっても伝える機会や手法を持たなかった地域住民との間を大学がつなぐ形となった。今後のまちづくりにむけて、住民、行政、大学の協働をより実りあるものとするために、今回の経験をいかしたい。謝辞：横浜国道の戸澤辰美氏、仲村哲男氏、横須賀市景観推進課の長島 洋氏の御協力に感謝の意を表します。